



周年

強制疎開

記念シンポジウム

硫黄島



2024年2月17日 土

14:00 ~ 17:00

明治学院大学 白金キャンパス 3101 教室

後日 YouTube 配信予定

滝口悠生 [作家・硫黄島民3世] | 奥山登喜子 [硫黄島民1世]

伊藤謙一 [島民2世] | 高橋淑子 [島民3世] | 石原俊 [明治学院大学教授] | 渋谷正昭 [小笠原村長]

主催 ■ 明治学院大学国際平和研究所 / 全国硫黄島島民3世の会

後援 ■ 東京都小笠原村 / 明治学院大学社会学部附属研究所 / 公益財団法人小笠原協会 /

一般社団法人硫黄島帰島促進協議会 / 全国硫黄島島民の会 / 小笠原村在住硫黄島旧島民の会

明治学院大学国際平和研究所
PRIME
INTERNATIONAL PEACE RESEARCH INSTITUTE
MEIJI GAKUIN UNIVERSITY

硫黄島

記念シンポジウム

強制疎開

80周年

開催趣旨

硫黄島（東京都小笠原村）は、第2次世界大戦で最も凄惨な戦場のひとつとして知られています。一方、硫黄島・北硫黄島を含む硫黄列島（火山列島）で、それ以前に半世紀にわたって島民が生活を営んでいたことや、島民の多くが1944年に戦時強制疎開させられたことは、まだ広く知られてはいえませんが、また強制疎開時に、16～59歳の男性島民の多くは軍属として硫黄島に残留させられ、その大多数が地上戦の犠牲になりました。

硫黄島は地上戦後、米軍の秘密基地として利用されました。1968年の日本への施政権返還後は半世紀以上、自衛隊によって排他的に使用されています。硫黄列島は、第2次世界大戦期から冷戦期を経て21世紀にいたるまで、約80年間も全島民が帰還できないという、世界的にも異様といえる状態に置かれています。

2025年は「戦後80年」を記念するさまざまなイベントが行われ、硫黄島地上戦80年も想起されることでしょう。しかし、硫黄列島の「国策に翻弄された130年」の重い歴史をふまえるとき、2024年の「強制疎開80周年」には特別の意味があるのです。

第1部では、硫黄島民の戦前・戦中・戦後の経験をテーマとする小説『水平線』（新潮社）で織田作之助賞を受賞し、自らも島民3世である滝口悠生さんと、戦前の硫黄島での生活を鮮明に記憶している、島民1世の奥山登喜子さんに、強制疎開80周年をテーマに講演いただきます。

第2部では、硫黄島民2世代と3世代に登場いただき、滝口さん、奥山さんを交えて、硫黄島の過去と未来を考えるパネルディスカッションを行います。

小笠原村長の渋谷正昭さん、島民各団体の代表者にもご発言いただきます。

80年も故郷に帰れないなかで、島民の歴史や記憶を未来にどのようにつなげていくのか、市民社会や国がこれから何ができる／何をすべきなのか、みなさまと一緒に考えていきたいと思います。

石原 俊

プログラム

[趣旨説明・司会・オーガナイザー] 石原 俊 (明治学院大学社会学部教授・PRIME 所員・全国硫黄島島民3世の会顧問)

[開会挨拶] 渋谷正昭 (小笠原村長)

第 1 部

[基調講演] 「硫黄島強制疎開 80 周年にあたって」 滝口悠生 (作家/硫黄島民3世) 奥山登喜子 (硫黄島民1世)

休憩

第 2 部

[島民各団体の紹介]

[パネルディスカッション] 伊藤謙一 (硫黄島帰島促進協議会副会長/島民2世) 高橋淑子 (全国硫黄島島民の会会員/島民3世)

奥山登喜子 滝口悠生

お問合せ

明治学院大学国際平和研究所 (PRIME) <http://www.meijigakuin.ac.jp/~prime/>

[TEL] 03-5421-5652 [FAX] 03-5421-5653 [E-MAIL] prime@prime.meijigakuin.ac.jp

明治学院大学国際平和研究所
PRIME
INTERNATIONAL PEACE RESEARCH INSTITUTE
MEIJI GAKUIN UNIVERSITY